

平成31年度

全国学力・学習状況調査における山口市の結果概要について

山口市教育委員会

1 調査の概要

(1) 目的

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証して、その改善を図る。
- ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査期日 平成31年4月18日（木）

(3) 調査対象 小学校第6学年児童
 中学校第3学年生徒

(4) 調査の内容

I 教科に関する調査（小学校：国語、算数 中学校：国語、数学、英語）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

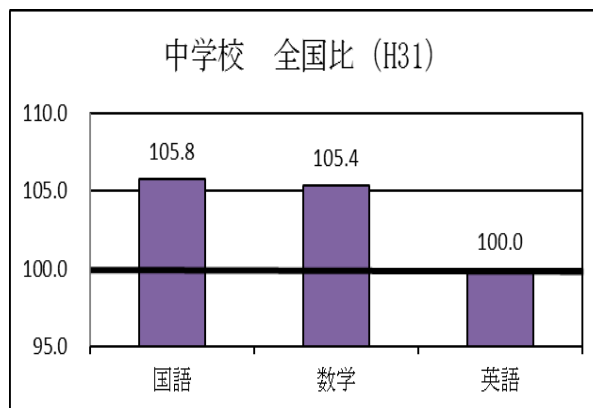
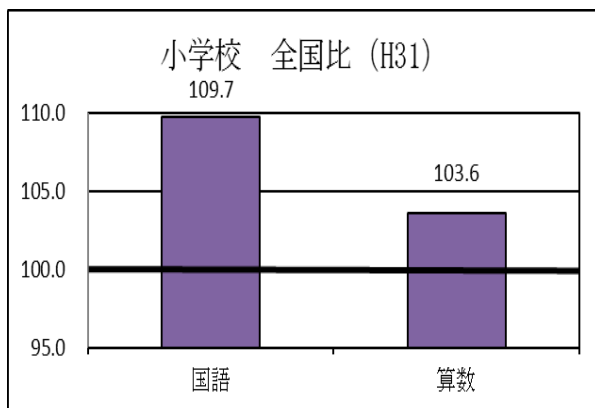
II 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

- ア 児童生徒に対する調査（児童生徒質問紙）
- イ 学校に対する調査（学校質問紙）

2 教科に関する結果

(1) 山口市と全国の各教科平均正答率の比較

全国平均正答率を100として、各教科における本市の結果（指標）をグラフで表しています。



○各学校や児童生徒の日々の取組の成果として、小学校・中学校ともに、国語、算数・数学において全国平均正答率を上回る結果となっています。特に、小学校の国語や中学校の国語、数学は、全国比を5ポイント以上、上回る結果となっています。

(2) 成果と課題

各教科の調査問題※における解答の結果について、本市における傾向をまとめています。

- ◎…正答率が高かった問題や、経年比較による課題の解決が見られる問題
- ▼…本市の正答率が50%以下、または全国平均正答率を下回る等、課題の見られる問題

また、解答結果から見られる学びのポイントについて、次の3点でまとめています。

- ① …児童生徒の解答傾向
- ② …解答結果の考察
- ③ …学びのポイント

※ 調査問題の詳細や全国の調査結果、授業アイデア集などは、国立教育政策研究所の「教育課程研究センター全国学力・学習状況調査」内、「平成31年度調査」のリンク (<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>) から閲覧することができます。

◎目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読むこと。(2)の二)

◎話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って、自分の理解を確認するための質問をすること。(3)の一)

▼目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くこと。

(1)の三)

※ (2)の二) などは問題番号です。

＜解答結果から見られる学びのポイント＞

－ 国語1)の三 目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く －

正答例

(なぜなら、) 公しゆう電話は、主にけいたい電話を使うことができないときに必要とされていたり、きん急のときにも使うことができたりするからです。(68字)

【市正答率35%】
(全国正答率29%)

なぜなら、	調査の結果から、公衆電話は、わたしたちにとって必要がなくなってしまったわけではないと考えました。
70字	40字

※左の原稿用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。
※◆の印から書きましょう。どちらうで行を変えないで、続けて書きましょう。

○「2 調査の内容と結果」の(1)と(2)の両方から言葉や文を取り上げて書くこと。
○「報告する文章」にふさわしい表現で書くこと。
○書き出しの言葉に続けて、四十以上、七十以内にもまとめて書くこと。なお、書き出しの言葉は字数にふくむ。

〈条件〉

三 高橋さんは、「3 調査の結果をもとに考えたこと」の(1)と(2)で分かったことをまとめて書いています。に「2 調査の内容と結果」の(1)と(2)で分かったことをまとめて書いています。に入る内容を、次の条件に合わせて書きましょう。

1



「2 調査の内容と結果」の(1)と(2)の両方から、分かったことについて言葉や文を取り上げて書いていない誤答が45%見られました。



相手に自分の意図が伝わるように、理由や根拠を適切に取り上げて書くことに課題が見られます。



この問題では、文章全体の構成やそれぞれの段落の内容を捉え、「2 調査の内容と結果」の「(1) 公衆電話はどんな時に必要か」と「(2) 公衆電話にはどのような使い方や特ちょうがあるのか」の両方から分かったことについて取り上げて書く必要があります。

このことから、目的や意図に応じて、集めた材料を分類、関係付けをして伝えたいことを明確にして書いたり、事実と感想、意見とを区別して書いたりすることが大切です。

◎棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取ること。(2)の(1))

◎目的に適した、伴って変わる二つの数量を見出すこと。(4)の(1))

▼示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述すること。(3)の(2))

▼示された除法の式の意味を理解すること。(3)の(4))

※ (2)の(1))などは問題番号です。

<解答結果から見られる学びのポイント>

ー 算数3の(4) 示された除法の式の意味を理解する ー

3

(4) ゆいなさんは、下の問題について考えています。

問題

リボンを0.6 m買ったときの代金が180円でした。

このリボン1 m分の代金は、いくらですか。

180 円

0.6 m

1 m分の代金は $180 \div 0.6$ の式で求めることができます。

ゆいなさんは、次のように、小数のわり算を整数のわり算にして答えを求めました。

$$\begin{array}{rcl} 180 \div 0.6 & = & \boxed{} \\ \downarrow \times 10 & \downarrow \times 10 & \nearrow \text{変わらない} \\ 1800 \div 6 & = & 300 \end{array}$$

だから、 $180 \div 0.6$ の答えの $\boxed{}$ は、300 です。

$1800 \div 6$ は、何 m 分の代金を求めている式といえますか。

下の **あ** から **え** までの中から1つ選んで、その記号を書きましょう。

あ 0.6 m 分の代金

い 1 m 分の代金

う 6 m 分の代金

え 10 m 分の代金

正 答

い

【市正答率 46 %】

(全国正答率 47 %)

?

う を選択した誤答が24%、**え** を選択した誤答が15%見られました。

Q

示された除法について、式全体を捉え、その意味をきちんと理解することについて課題があります。

!

この問題では、はじめに示された除法の式 $180 \div 0.6$ が、リボン1 m分の代金を求める式であること、また被除数と除数を等倍しても、計算結果は変わらないことを理解しておくことが必要です。そのために、長さ、重さ、容積等の単位量あたりの大きさを求める活動を通して、除法を用いることの意味や、除法の式の性質について正確に理解しておくことが大切です。

◎文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考えをもつこと。(1の三)

◎書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討すること。

(3の一)

▼封筒の書き方を理解して書くこと。(1の四)

※ (1の三) などは問題番号です。

<解答結果から見られる学びのポイント>

正答例・正答条件

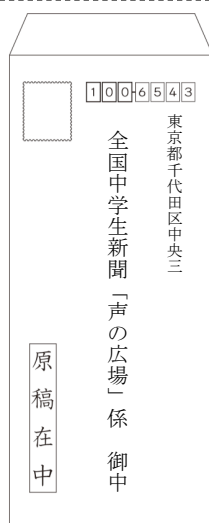
【市正答率57%】

(全国正答率57%)

(正答の条件)

次の条件を満たして
解答している。

- ① 投稿先の名前と
住所の正しい内
容を楷書で書い
ている。
- ② 投稿先の名前に敬称を適切に付け
て封筒の中央に書き、住所を封筒の
右側に書いている。
- ③ 投稿先の名前を住所より大きく書
いている。
- ④ 縦書きで書いている。



※ 左の枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

条件1 封筒の書き方に注意して縦書きで書くこと。

条件2 投稿先は団体なので、「様」ではなく「御中」と書くこと。

四 あなたは、「声の広場」への投稿を封筒で郵送しようとしています。「全国中学生新聞」に示されている投稿先の名前と住所を、次の条件1と条件2にしたがって、楷書で正しい書き方をしなさい。なお、自分の名前と住所は不要です。

1



正答率57%のうち、全ての条件を満たしているものは13%でした。また、誤答では、正答の条件②・④を満たし、①を満たさないものが18%見られました。



手紙の基本的な形式を理解すること、文字の大きさや配列に注意して丁寧に読みやすく書くことに課題があります。



手紙の基本的な形式に基づき、紙面全体に対してそれぞれの文字の大きさや書くべき位置を考える必要があります。その際、形式に込められた相手への敬意についても考えることが大切です。また、書写の学習で培った文字を書くことに対する意識を高め、他の場面でも積極的に活用しながら、日常の文字を正しく整えて書くことも重要です。

◎平行移動の意味を理解すること。(3)

◎反例の意味を理解すること。(7の(2))

▼事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること。(6の(2))

▼資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること。
(8の(2))

※ (3) などは問題番号です。

<解答結果から見られる学びのポイント>

ー 数学8の(2) 資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を

8

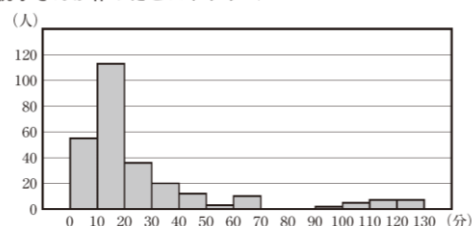
用いて説明する ー

(2) 二人は、実施したアンケートをもとに、1日あたりの読書時間について、次のような表とヒストグラムにまとめました。桃子さんが作ったヒストグラムでは、例えば、1日あたりの読書時間が30分以上40分未満だった生徒が20人いたことを表しています。

航平さんが作った表

	平均値	最大値	最小値
1日あたりの読書時間(分)	26.0	120	0

桃子さんが作ったヒストグラム



二人は、上の航平さんが作った表と桃子さんが作ったヒストグラムについて話し合っています。

航平さん「1日あたりの読書時間の平均値が26.0分だから、1日に26分ぐらい読書をしている生徒が多いといえそうだね。」

桃子さん「でも、ヒストグラムを見ると26分ぐらいの生徒が多いとはいえないのではないかな。」

桃子さんが作ったヒストグラムを見ると、航平さんのように「1日あたりの読書時間の平均値が26.0分だから、1日に26分ぐらい読書をしている生徒が多いといえそうだ」という考えは適切でないことがわかります。その理由を、桃子さんが作ったヒストグラムの特徴をもとに説明しなさい。



資料の傾向を批判的に考察し、判断した根拠を数学的な表現を用いて説明することに課題があります。



bについて度数の大小のみを記述し、cについて記述していないものが10%、無解答が18%見られました。



目的に応じて収集したデータを考察する場面では、度数分布表やヒストグラムから資料の傾向を適切に読み取り、批判的に考察し判断することが必要です。データを分析する際、そのデータの傾向や目的によっては、代表値として平均値を用いることがふさわしくない場合があることを理解し、さらにその判断の根拠を数学的な表現を用いて説明できるようになることが大切です。

正答例・正答条件

【市正答率42%】

(全国正答率41%)

- ・1日あたりの読書時間である26分は山の頂上の位置にないので、1日に26分ぐらい読書をしている生徒が多いというのは適切ではない。
- ・度数が最大となる階級は10分以上20分未満の階級であるので、1日に26分ぐらい読書をしている生徒が多いというのは適切ではない。
- ・1日あたりの読書時間である26分が含まれる階級は、度数が最大となる階級ではないので、1日に26分ぐらい読書をしている生徒が多いというのは適切ではない。

(正答の条件)

次のa、cまたは、b、cについて記述しているもの。

a 1日あたりの読書時間である26分が、山の頂上の位置にないこと。

b 1日あたりの読書時間である26分が、度数が最大である階級に含まれていないこと。

c 1日に26分ぐらい読書をしている生徒が多いといえそうだ、という考え方は適切ではないこと。

- ◎まよりのある英語を聞いて、必要な情報を理解すること。(3)
- ◎日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものの内容を、正確に読み取ること。(5の(1))
- ▼まよりのある文章を読んで、説明文の大切な部分を理解すること。(7)
- ▼一般動詞の1人称複数過去時制の肯定文を正確に書くこと。(9の(2)の②)

※ (3) などは問題番号です。

<解答結果から見られる学びのポイント>

ー 英語9の(2)の②一般動詞の1人称複数過去時制の肯定文を正確に書くー

- 9** (2) 次の①, ②について、例を参考にしながら、必要があれば()内の語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりなどして、それぞれ会話が成り立つように英語を完成させなさい。

(例) <放課後に図書室で>

A : Can you help me now?

B : Sorry. I (do) my homework now.

[答え] am doing

正答例

We stayed

【市正答率 25%】
(全国正答率 29%)

② <休み明けに教室で>

A : Was your vacation good?

B : Yes. My family and I went to Australia.
(stay) there for two weeks.

A : Wow! Wonderful.



肯定文となっていないものが22%、過去時制以外の肯定文としてあるものが19%、無解答が12%見られました。



場面・状況等を正確に把握し、知識を活用して段階をおって答えを導き出すことに課題があります。仮に We (stay) ~. と書かれ()内の後を適切な形に変えるこれまでのような問題ならば正答率が高いと思われます。



会話の流れを読んだり聞いたりして時制を判断し、基本的な語や文法事項等を活用して文を書くなど技能統合型の問題に慣れることが必要です。和文に対応した穴埋めや語句整序の問題だけでなく、言語活動を通して文法事項等を身につけていくことが大切です。

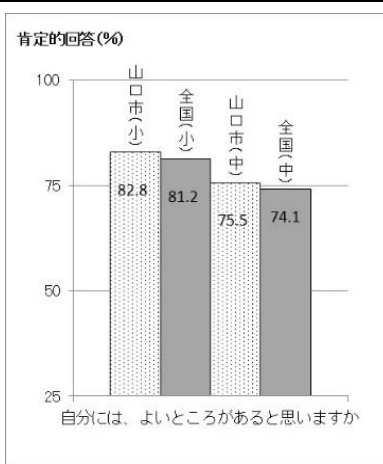
3 生活習慣や学習環境等の結果

◎…望ましい状況 ▼…課題の見られる状況

◎自己肯定感の涵養

「自分には、よいところがある」と回答した児童生徒は、小学校で約83%、中学校で約76%であり、昨年度に引き続き、全国平均を上回る結果となっています。

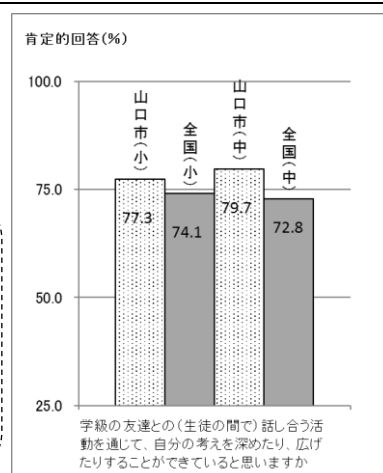
今後も、授業を始め、学校生活全体で子どもたち一人ひとりのよさや可能性を見つけ、価値づけることを通して、自分自身を大切に思う自己肯定感や、他者を思いやる豊かな心を育んでいくことが大切です。



◎話し合い活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすること

「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と回答した児童生徒は小学校で約77%、中学校で約80%と、全国平均を上回る結果となっています。

「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善が進んでおり、各授業では児童生徒が関わり合い、思いや考えを伝え合い、協力して解決していく場面を設定しています。今後は、学びの「深まり」の鍵となる各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を軸としながら、幅広く授業改善を継続して行く必要があります。

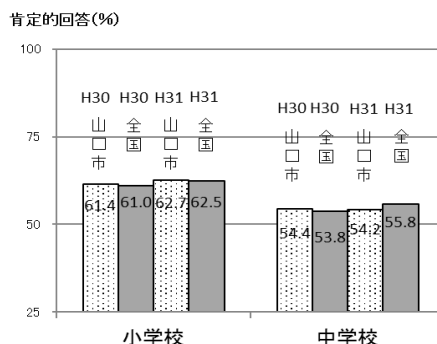


▼自分の考えがうまく伝わるよう工夫して発表すること

「学習中、自分の考えが聞き手にうまく伝わるように話の組み立てなどを工夫して発表していた」と回答した児童生徒は、小学校で約63%、中学校で約54%となり、昨年度とほぼ同様の結果になっています。

日々の学習において、聞き手を意識して効果的に自分の考えを伝える場を設定していくことが大切です。そのために、ペアやグループといった学習形態の工夫をしたり、理由や根拠を手がかりに意見を述べる場の設定をしたりすることが必要です。

自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか

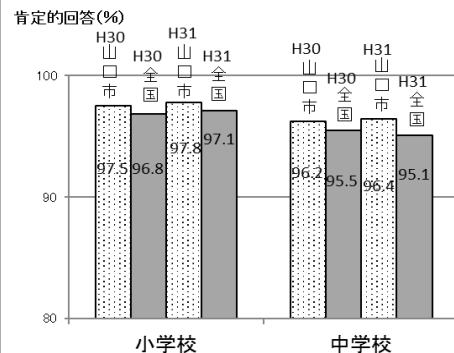


◎▼いじめを許さないという意識

「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」と回答した児童生徒は小学校で約98%、中学校で約96%となっており、全国平均値を上回る結果となっています。昨年度に比べて、やや増加しましたが、100%には至っていません。

いじめに正面から向き合う「考え、議論する道徳」の充実はもちろんのこと、今後も「特別の教科 道徳」の授業を「要」として、学校の教育活動全体を通していじめ防止に取り組んでいくことが大切です。

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか

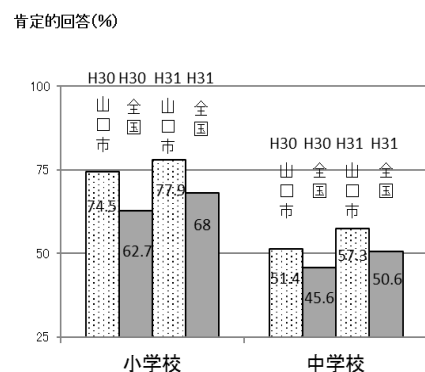


◎地域行事への参加、地域とのかかわり

「今住んでいる地域の行事に参加している」と回答した児童生徒の割合は、小学校で約78%、中学校で約57%となっており、全国平均値を大きく上回る結果となっています。

小・中学校ともに昨年度に比べて増加しており、各学校のコミュニティ・スクールの取組の成果が表れています。熟議等を通して学校・家庭・地域で育てたい子ども像を共有しながら、「地域とともにある学校」として、計画的、継続的な取組をさらに推進する必要があります。

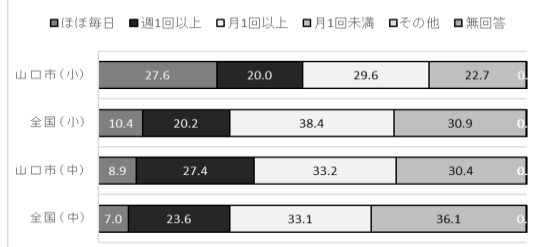
今住んでいる地域の行事に参加していますか



◎▼ICTの活用

「これまでに受けた授業で、コンピュータなどのICTをどの程度使用しましたか」に対して、週1回以上と回答した児童生徒は小学校で約48%、中学校で約36%となっており、全国平均値を上回る結果となっています。小学校では、ほぼ毎日が約28%と全国を大きく上回っていることが分かります。

5年生までに(1,2年生のときに)受けた授業で、コンピュータなどのICTをどの程度使用しましたか



小・中学校の全クラスに電子黒板を設置し、タブレット端末も計画的に配置しています。小学校には電子黒板専用のパソコンとデジタル教科書(2教科)を導入し、積極的な活用が図られています。今後も、より効果的な活用方法等について教職員の研修を進めていく必要があります。

4 課題解決に向けた各学校の取組事例

- A小学校では、日々の授業で「伝える」活動に視点をあて、「ペア→グループ→全体」へと授業形態を工夫しながら、子どもたちの主体性を育むとともに、対話を促す取組を進めています。このことを通して、自らの学習内容の理解を深め、他者の意見を受容的に聴く力も育ってきています。
- B小学校では、全教職員で全国学力・学習状況調査の結果分析を行い、課題だけでなく「子どものよさ」を明らかにし指導に活かしています。学習規律や対話的な学習を支える発表の仕方、学習の軌跡がわかるノート指導の基本型等について、全教職員で共通理解・協同実践をすることで子どもたちに学び方が定着してきました。また、毎日「午後読書」を実施し、読書の習慣も身につけています。
- C小学校では、体験的で実感的な教育課程づくりをめざし、教職員だけでなく、保護者や地域とともに取組を進めています。校舎内には子どもたちの基礎・基本の学習内容の定着を図るための様々な掲示物があり、子どもたちは楽しみながら、授業以外の学校生活の中でも学びに挑戦しています。
- D小学校では、安心・安全な学校づくりをめざし、子どもたち一人ひとりが安心して学べる環境づくりに取り組んでいます。特に、教室での支持的風土の醸成や学習規律の定着で成果が表れています。また、全校体制で実施している朝学習をすることで学習意欲が高まり、授業に集中する子どもが増えています。
- E中学校では、学校全体の取組として、生徒の机の配置をコの字型にするなど、子どもたちの授業への参加意識をより高める工夫を行っています。考え、議論する場面を多く設定することで、子ども同士の建設的な関わりが育っています。
- F中学校では、学校全体で「めざす姿」や「つけさせたい力」を共有し、日々の学習では「主体的・対話的で深い学び」のある授業をめざすとともに、キャリア教育と関連付けた取組を進めています。その成果として、子どもたち自身が「どのような力を身につけるために学ぶのか」「どのような力が身についたか」を考える意識が高まっています。
- G中学校では、家庭学習の質を高めるために、子どもたちとともに「学習の手引き」を作成し、主体的な学習態度を育成しています。また、これからの社会を生きる子どもたちが困らないように、社会面、学習面、身体面の3方向から子どもを支援する包括的プログラムの取組を進めています。

山口市教育委員会は、今年度の成果と課題を踏まえ、日常的な学校訪問によって各学校の実態に応じたきめ細かな指導助言と支援を継続することで、今後も児童生徒の学力の向上と望ましい学習習慣の定着を図っていきます。